

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）

（分担）研究報告書

ブロック拠点病院のない自治体における中核拠点病院の機能評価と体制整備のための研究

課題番号：H30-エイズ-一般-003

【分担研究4】地域で実践的なポケット版小冊子の作製

研究分担者：高田 清式（愛媛大学医学部附属病院 教授）

研究要旨：四国のようにブロック拠点病院が近辺になく、県内の個々のエイズ拠点病院が十分に機能していない、いわゆる地方の比較的医療過疎である地区に、本研究によってHIV診療の充実や均てん化が促されていくことが期待されている。この背景のもと、療養病院および福祉施設に簡便にHIVに関するマニュアルが手元にあることが知識の確認や啓蒙につながると考え、ポケット版の介護マニュアルの発行を考えた。令和2年度の研究成果として、地域でHIV診療に関する実践的なポケット版小冊子の作製（最新の愛媛や四国の現況や針刺し事故時の感染予防内服薬を配備している病院名など具体的に刷り入れた）し四国の主なHIV診療施設および介護および福祉施設に配布を行った。これらの施設ではハンディで判りやすいと概ね好評であった。

研究分担者

末盛浩一郎・愛媛大学医学系研究科・特任講師

井門敬子・愛媛大学医学部附属病院・副薬剤部長

若松綾・愛媛大学医学部附属病院・看護師

小野恵子・愛媛大学医学部附属病院・総合診療サポートセンター・ソーシャルワーカー

A. 研究目的

ブロック拠点病院が近辺にない愛媛県において当院は、エイズ地域中核拠点病院に指定され、累計200名以上の患者を治療している。四国地区は近年HIV・エイズ患者の増加が著しく、大半の患者が当院に受診している。かつ四国地区は高齢化率が29%前後の地方であり、都市に比べ高齢者のHIV・エイズ患者が多く、HIV感染および

合併症が進行し日常生活に差し障りが著しく自宅以外での長期療養が必要な例も少なくない。当院は急性期病院の立場であり、自宅で生活困難な長期療養患者の対応については、他の施設への紹介・受け入れを個々の事例において行っているがHIVに対する不安や感染リスクが問題になり、受け入れに難渋しているのが実情である。さらに治療以外にも家族対応および就業面など社会的な対応も迫られることも多い。これらの実情のもと、数多くの医療スタッフによるチーム医療が必要な領域であることを踏まえ、当院では数年前よりHIV診療チームを立ち上げ活動しつつある。こうして愛媛県各地域の各病院・施設と連携を行うように努めているものの、対応すべきHIV感染症患者は多くかつ経済・人材面も満たされておらず、連携しうる病院・施設への啓

豪や人材の育成も患者数の増加からは極めて不十分な状況である。

この背景のもと、療養病院および福祉施設に簡便に HIV に関するマニュアルが手元にあることが知識の確認や啓蒙につながると考え、ポケット版の介護マニュアルの発行を考えた。

B. 研究方法

介護時の HIV 感染予防対策なども折り込んだ、愛媛および四国での実用的な（最新の愛媛や四国の現況や針刺し事故時の感染予防内服薬を配備している病院名等具体的に刷り入れた）HIV に関するポケット版マニュアル（18 x 10 c m大程度の予定）を作製し県内および四国の主だった HIV 診療施設に配布した。また、各出張講義や在宅看護の実施研修の参加者にこの介護用のポケット版マニュアルを配布し感想や意見を聴取し次回の介護用の小冊子の改訂版にも反映させる。

このポケット冊子に関しては、事前評価委員からも面白いという意見・評価もいただいております。今後現場での意見も聞きつつさらに改良した冊子を将来は作製したい。

（倫理面への配慮）

患者および関係者に対する人権の保護に配慮して行い、調査に協力できない場合も不利益にならないようにする。

C. 研究結果

介護時の HIV 感染予防対策なども折り込んだ、愛媛および四国での実用的な（最新の愛媛や四国の現況や針刺し事故時の感染予防内服薬を配備している病院名等具体的に刷り入れた）HIV に関するポケット版マニュアル冊子（18 x 10 c m大程度）を作製

し県内および四国の主だった HIV 診療施設に配布した（図）。



図 HIV 介護マニュアルポケット版

D. 考察

令和2年度の研究成果として、地域で HIV 診療に関する実践的なポケット版小冊子の作製（最新の愛媛や四国の現況や針刺し事故時の感染予防内服薬を配備している

病院名など具体的に刷り入れた) し四国の
主な HIV 診療施設および介護および福祉施
設に配布を行った。これらの施設ではハン
ディで判りやすいと概ね好評であった。

地方において、充足した生活が 1 人では
送れない HIV 感染患者に対し、拠点病院お
よび介護福祉間の連携が円滑にできるよ
うに努めていく必要があると考える。その
参考としてこのポケット版マニュアルが多
少でも役立つことを期待している。

E. 結論

ブロック拠点病院がない地域において、
HIV 診療体制整備として、介護および福祉
施設の充実を目的に、HIV 感染症に関する
介護用マニュアルを作製した。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 末盛浩一郎、田中景子、石川明子、小野恵子、芝田佳香、武田玲子、若松綾、宮崎雅美、中尾綾、乗松真大、木村博史、山岡多恵、井門敬子、竹中克斗、高田清式、愛媛県の各医療機関における HIV/AIDS 研修会後のアンケート調査を介した比較検討。日本エイズ学会誌, 23(1):26-32, 2021,
2. Nakao A, Yamanouchi J, Takenaka K, Takada K. The Iowa Gambling Task on HIV-infected subjects. J Infect Chemother. 26(3):240-244,2020
3. 高田清式. 新型コロナウイルス感染症の今わかっていること. EOCA (愛媛臨床整形外科医会会報) :35 (1) 5-10, 2020.
4. 福井亜里沙、早淵 修、本田真仁、吉

田圭佑、片岡秀之、山口普史、高田清式、市原新一郎. 早期治療介入により重症化を免れた熱帯熱マラリアの 1 例. 四国医学雑誌. 76 (3, 4) :197-202, 2020.

5. 中村美保、前田英武、岡崎雅史、西田拓洋、朝霧正、四國友理、北村優衣、高田清式、武内世生. 医療機関における HIV 陽性者受け入れ時の問題点と解決への取り組み. 日本エイズ学会誌 (投稿中)

2. 学会発表

1. 高田清式. HIV 感染症の最近の話題. 日本内科学会第 64 回北海道支部生涯教育講演会、2020 年、北海道、WEB 開催
2. 菊地正、蜂谷敦子、西澤雅子、椎野禎一郎、俣野哲朗、佐藤かおり、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、渦永博之、岡慎一、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂寛、渡邊珠代、今橋真弓、松田昌和、重見麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊大、小島洋子、森治代、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南留美、山本政弘、松下修三、健山正男、藤田次郎、杉浦 互、吉村和久、国内新規 HIV/AIDS 診断症例における 薬剤耐性 HIV-201 の動向. 日本エイズ学会、2020 年、WEB 開催
3. 谷口裕美、岡本愛、村上晶子、森本麻里、川野由季、西村真智子、末盛浩一郎、宮本仁志、高田清式、当院における HIV スクリーニング検査偽陽性例の検討. 日本エイズ学会、2020 年、WEB 開催
4. 中尾綾、武田玲子、藤原光子、本園 薫、末盛浩一郎、山之内純、竹中克斗、高田清式、HIV 感染者への POMS2 を使用した

精神的支援の検討. 日本エイズ学会、2020年、WEB 開催

5. 臼井麻子、中尾綾、西田拓洋、吉川由香、海面敬、吉武亜紀、赤松祐美、池谷千恵、中村美保、川田通子、佐藤譲、武内世生、窪田良次、尾崎修治、和田秀穂、千酌浩樹、山下光、山之内純、高田清式、中国四国地方における HIV 関連神経認知障害に関する研究 -中間報告-. 日本エイズ学会、2020年、WEB 開催

6. 乗松真大、井門敬子、松本卓也、本園薫、末盛浩一郎、飛鷹範明、田中守、高田清式、抗 HIV 薬ラルテグラビルが原因で Grade 3 の血圧上昇をきたした 1 症例. 日本エイズ学会、2020年、WEB 開催

7. 高田清式、末盛浩一郎、村上雄一、高齢者のアフリカ旅行後の重症マラリアの治療例、グローバルヘルス合同大会 2020、2020年、WEB 開催

H. 知的財産権の登録状況（予定を含む）

該当なし